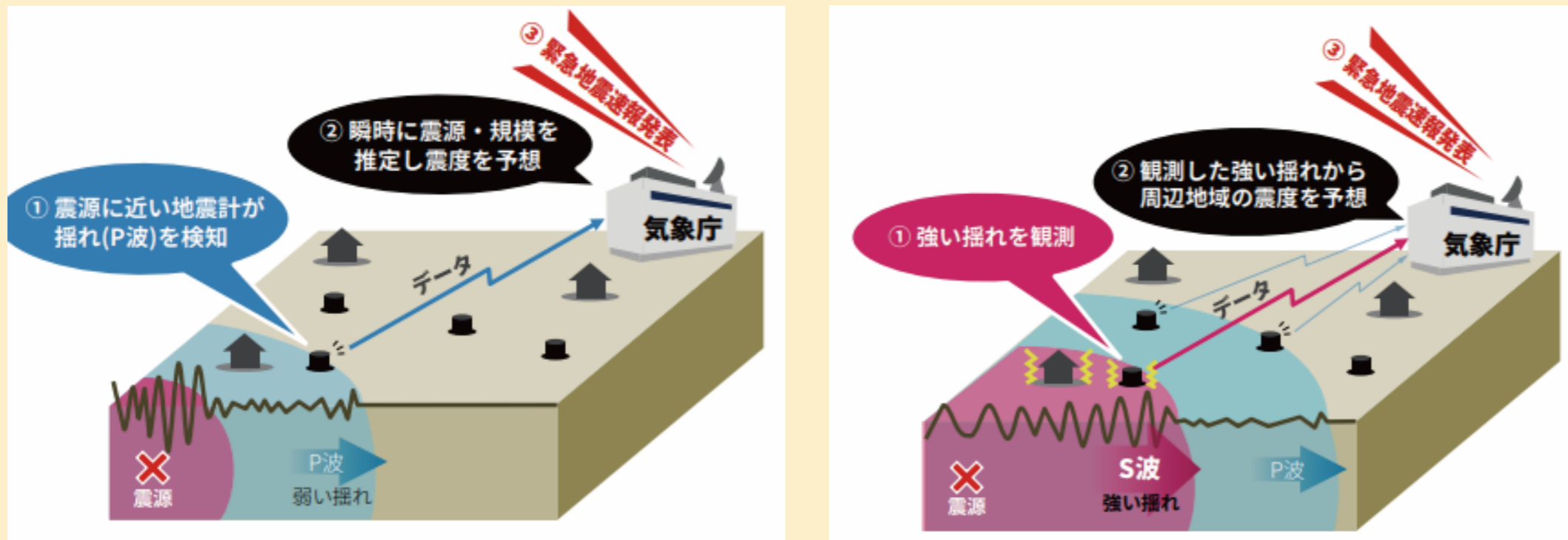


私たちに身近な緊急地震速報

緊急地震速報は、地震の発生直後に、各地での強い揺れの到達時刻や震度を予想し、可能な限り素早く知らせる情報のことです。強い揺れの前に、自らの身を守ったり、列車のスピードを落としたり、あるいは工場等で機械制御を行うなどの活用がなされています。

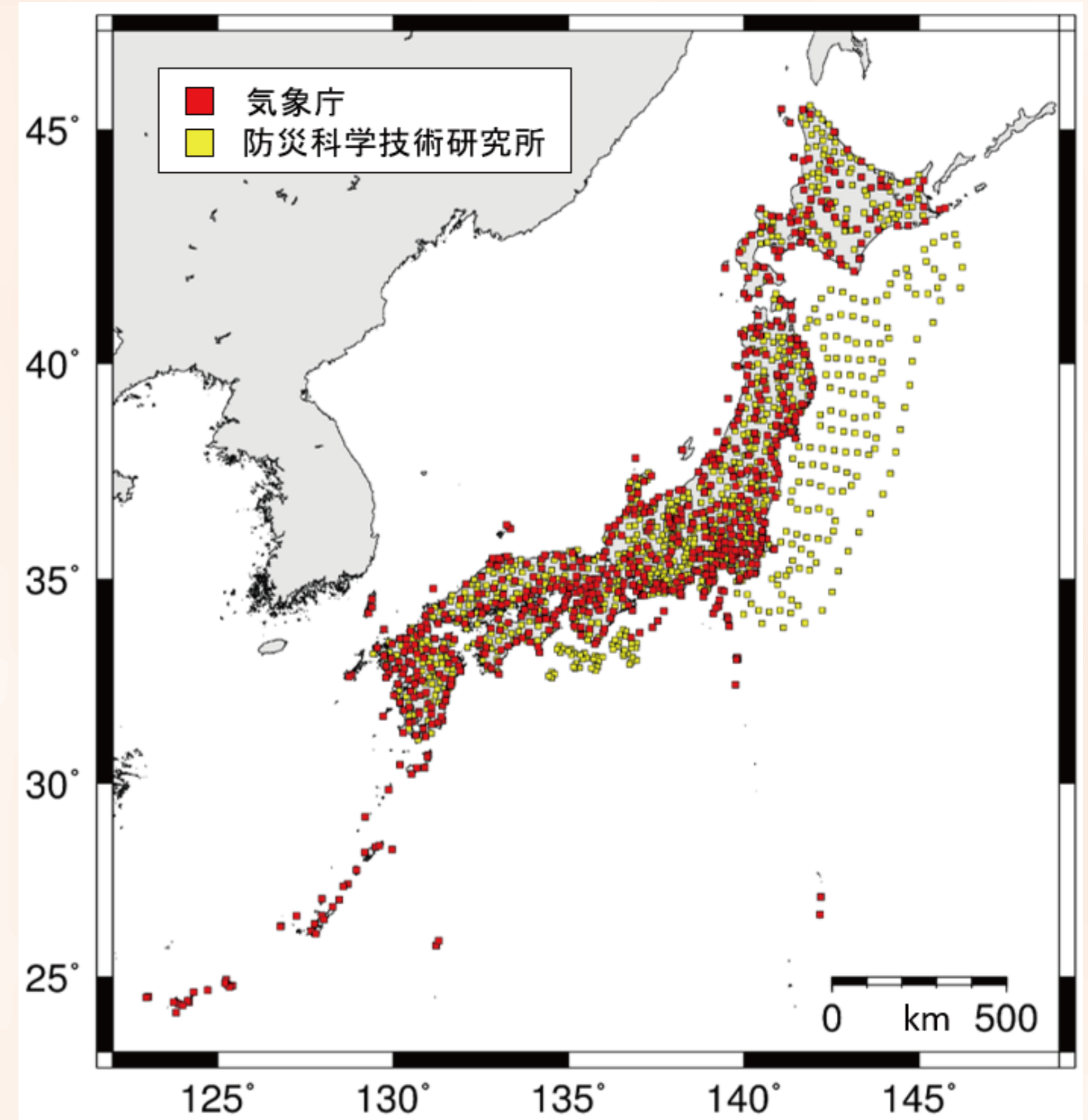


地震が発生すると、震源からは揺れが波となって地面を伝わっていきます（地震波）

地震波にはP波(Primary:秒速約7km)とS波(Secondary:秒速約4km)があり、P波の方がS波より速く伝わる性質があります。

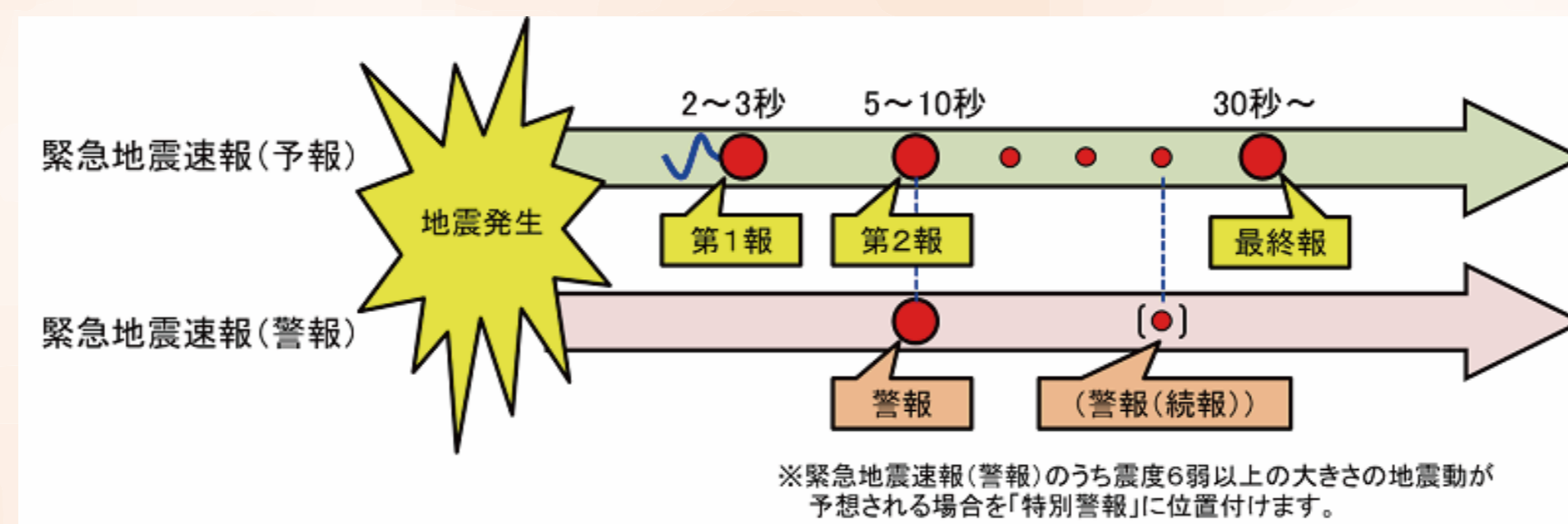
強い揺れによる被害をもたらすのは主に後から伝わってくるS波です。

先に伝わるP波を検知した段階でS波（強い揺れ）が伝わってくる前に、自動で瞬時に計算して震度を予想し、強い揺れが来る前にお知らせします。



緊急地震速報では、気象庁観測点690か所と、防災科学技術研究所地震観測網の観測点1000か所のデータが使われています。(令和4年4月1日現在)

緊急地震速報には、「予報」と「警報」の2種類があります。



緊急地震速報（予報）

最大震度3以上が予想された場合、震度4以上が予測された地域の名称・予想震度到達予想時刻を発表。精度を上げて何度も発表されます。

- ・揺れの到達などを警報よりも早く知ることができます。
- ・この予報を受けるためには民間の配信事業者や予報業務許可事業者と契約したり、警報を受信する緊急速報メールとは別のスマートフォンアプリを活用する方法があります。



緊急地震速報（警報）

最大震度5弱以上が予想された場合、震度4以上が予測された地域（警報の対象地域）の名称を発表。原則1つの地震に対して1回のみ発表します。

- ・「警報」は強い揺れから身を守ってもらうことを目的に発表します。テレビやラジオのほか、携帯電話やスマートフォンで伝えられます。
- ・すぐに身を守る行動がとれるように特徴的なチャーム音・ブザー音でお知らせします。

